

November

京都教師塾通信
No.4

令和2年11月28日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第15期
「京都教師塾」

第2回教育実践特別公開講座 講師:学校指導課 大菅 佐妃子 副主任指導主事 「外国にルーツをもつ子どもたちの教育 ～日本語指導が必要な子どもたちへの支援について～」

今回は、学校指導課の大菅佐妃子先生にお話しいただきました。京都市では日本語指導を必要とする児童・生徒の在籍校が年々増え、散在化するとともに、就労や留学、起業等、保護者が京都に来る目的も多様化し、その支援が喫緊の課題となっています。そのような状況の子どもたちに対し、授業でどのような活動なら参加できると皆さんは考えたでしょうか。大菅先生のお話を聞いて、少しの工夫で、できることはたくさんあるのだということに気付いたと思います。

日本語指導が必要な子どもたちにとって、日本語の習得以外に大切なことは「アイデンティティの確立」「学習参加ができる授業」であり、そのことで意欲的に学習を進め、自らの進路を実現することができるのだと教えてくださいました。

今回のお話を切り口として、支援や配慮が必要な子どもたちへの一人一人に応じた支援が、最終的には全ての子どもたちの学力保障につながるのだということに気付くことができたのではないかと思います。

日本語を母語としない保護者に向けた「小学校生活スタートガイド」

第3回京都市教育学講座 講師:中堅教員2名 「子どもを豊かに育む教育」

第3回京都市教育学講座では、2名の中堅教員の方に実践発表をしていただきました。2名とも皆さんの先輩である卒塾生で、小学校籍の先生は現在4年生の担任を、中学校籍の先生は3年生の学年主任をしておられます。小学校籍の先生は、採用1年目の経験から今でも大切にされている3つのことの具体を、中学校籍の先生は、学年づくりや教科指導、部活動指導等、様々なエピソードをもとにお話してくださいました。また、これから先生になる塾生に伝えたいこととして、「出会いが人を育てる、たくさんの人との出会いを大切に」というメッセージをいただきました。

分散会では、「子ども主体の教育活動をどう作る？」というテーマで話し合いを行いました。前回の若手教員の時と同様、各分散会場を回ってくださった2名の先輩方に、積極的に質問する姿が見られました。

実践発表をしてくださった先生方

お二方とも、人とつながること、子どもと一緒に自分も楽しむことの大切さを何度も話されていましたね。具体的に話してくださったので、現場の様子がイメージしやすかったのではないのでしょうか。ぜひとも学校実地研修で現場について謙虚に学び、今の自分に何ができるのかを考えていって欲しいと思います。



仲間のレポートに学ぶ



7組



第3回京都市教育学講座【講義】

「子どもを豊かに育む教育」を受講して

子どもが主体的に学ぶことの出来る教育活動の実践は様々な形があったが、それら全てを教師の側が「どういう児童生徒を育てたいのか」「この活動を通じて児童生徒に身に付けさせたい力は何か」という明確な目標を前もって定めたうえで、コントロール・コーディネートしているのだということがわかった。単に児童生徒に委ねるだけでは、彼らが適切な力を身に付けることが出来ないだろうし、教師の側の支援も、ともすれば的外れのものになってしまうのではないだろうかと考えた。また、そうした目標もなるべく長いスパンで見据えたものであった方が、系統的な教育活動につながるだろうし、児童生徒もその目標を捉えやすいということも学ぶことが出来た。

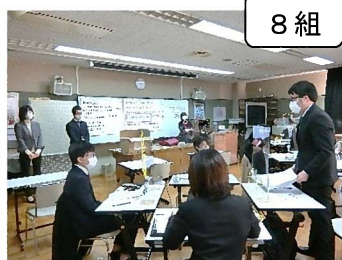
明確な目標設定のためには、児童生徒ときちんと向き合うこと、彼らの課題を認識することも必要ではないか、という意見がグループ討議の中で出されたが、この視点が自分には欠けていたと気付かされた。また、講義及びグループ討議の中で、子ども主体の教育を成功させるためには、彼らを待つ力・信頼して委ねられる力も大切だと気付かされた。子ども主体で何かをするというのは時間がかかることであるし、大人から見ればうまいやり方には思えないかもしれない。しかし、そういった過程を通じて彼らは成長するだろうし、主体的な学びが求められる意図の一つもそこにあると思う。待つ・信頼するということは、日常生活の中で意識的にやっていないと出来ないことだと思うので、早速今日から頑張りたい。

具体的な生徒像を描くことで明確な目標を持つことができます。そしてそれが明確であればあるほど、ぶれない軸で子どもの成長を見取ることができます。そのこと自体が子どもの主体性を尊重することにつながるのです。子どもの発達に即して長期的に育ちを保障するという教育観を持つことに気付けたことはとてもよかったのではないのでしょうか。だからこそ、どの校種でも教師が子どもに向き合う覚悟がやりがい感につながるのだと思います。さらに今後の教師塾で見方・考え方を深めてください。

1組



8組



9組



補講
(11/17)



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
序の巻 子どもの権利を保障し、教育を实践しましょう！

